

2017 年度

ファシリテーターフォローアップミーティング
実施報告書

うえだみなみ乳児院

【フォスタリングチェンジ実践委員会の開催】

実施日	4月21日	8月19日	1月20日
場所	福岡	福岡	乳児院

1. 第1回フォスタリングチェンジ実践委員会

(1) 実施日

平成29年4月21日（金）16:00～17:30

(2) 実施場所

SOS子どもの村 JAPAN 2階 多目的室

(3) 参加人数

18名

(4) 内容

今回は、九州地区の企画委員会と合同で開催した。

まず、九州地区より、平成28年度のフォスタリングチェンジ・プログラムの事業報告を行っていただいた。また、東京・九州フォーラムについての報告もいただいた。

次に、平成29年度のフォスタリングチェンジ・プログラム事業計画を九州地区、関東地区それぞれから発表いただいた。九州地区からは、フォスタリングチェンジ・プログラムの実施、ファシリテーターフォローアップミーティング、企画委員会について説明いただいた。関東地区からは、関東地区の事務局をうえだみなみ乳児院が務めることを周知し、関東地区でのフォスタリングチェンジ・プログラムの展開について説明いただいた。また、第3回のフォスタリングチェンジ・ファシリテーター養成コースの計画についても触れた。その他、フォスタリングチェンジ・プログラムの評価研究、実践委員会のあり方、フォローアップミーティングの内容、個別コンサルテーションの依頼方法について説明いただいた。

最後に、各都道府県の各機関から集まっていたため、フォスタリングチェンジ・プログラムに限らず、里親支援全般の意見交換が行われた。

2. 第2回フォスタリングチェンジ実践委員会

(1) 実施日

平成29年8月19日（土）13:00～16:30

(2) 実施場所

福岡市こども総合相談センターえがお館 7階研修室

(3) 参加人数

九州地区ファシリテーターと企画委員会メンバー
関東地区ファシリテーターと運営委員会メンバー

(4) 内容

今回は、九州地区の企画委員会と合同で開催した。

まず久留米より、セッション9「ポジティブ・ディシプリン（効果的なしつけ）および限界の設定」のデモンストレーションを行っていただいた。また、実際の様子を撮影した動画も提示いただき、内容を共有した。その後、発表者と参加者でディスカッションし、セッション9の内容やスキルを深めていった。

次に、静岡、山梨、三重それぞれから、フォスタリングチェンジ・プログラム実施の様子をご報告いただいた。フォスタリングチェンジ・プログラムを実施する中で、疑問に感じた点や困った点を挙げていただき、参加者で検討、共有を図った。

次に、フォスタリングチェンジ・プログラム実施後の参加者へのフォローアップ研修に関して、熊本、福岡、山梨、静岡より現在の計画や実施状況等、ご報告いただいた。

次に、ハンドアウト、パワーポイント資料の修正について、九州地区事務局よりご提出いただき、情報の共有を図った。

質問紙評価票の集計について、上鹿渡先生よりご説明いただいた。青木豊氏へ分析を依頼し、フォスタリングチェンジ・プログラムを実施した地域の全データを集計し、結果を抽出予定である。ただし、データ提出にあたり、倫理規定の確認が必要であるとの意見が出た。

最後に、欠席の取り扱いに関して、参加者で共有を図った。3回欠席は、修了証を渡すこととした。4回欠席は状況によって、考えることが必要である。どのセッションを欠席したかも重要である。5回欠席は、修了証を渡さないこととした。また、早退、遅刻の扱いをどうすべきかについても意見が出た。修了証と受講証を別々に出してはどうかとの意見も出た。修了証を発行する基準の設定が必要である。

欠席者のフォローに関しても、ファシリテーター間でバラつきが見られた。基本は資料配布のみとする。また、セッション4のアテンディングの参加は必須としたいが、参加できないからダメとするのはどうかとの意見も出た。フォスタリングチェンジ・プログラム実施前に参加者へセッション4には必ず参加して欲しい旨を伝えるようにすべきである。

このように、様々なことが想定され、ファシリテーターも増えてきているため、フォスタリングチェンジ・プログラムのマニュアル実施要項の作成が必要である。

3. 第3回フォスタリングチェンジ実践委員会

(1) 実施日

平成30年1月20日（土）10:30～16:30

(2) 実施場所

うえだみなみ敬老園 3階 機能訓練室

(3) 参加人数

参加者11名、スーパーバイザー2名の計13名であった。

(4) 内容

今回は、関東地区の第 5 回ファシリテーターフォローアップミーティングと同時開催とした。

九州地区のファシリテーターフォローアップミーティングにて、フォスタリングチェンジ・プログラム終了後についての話が出された。フォスタリングチェンジ・プログラム終了後の参加者へのフォローアップセッションの呼び名を統一してはどうかとの意見が出た（アフターセッション？フォローアップ？）。また、九州地区の参加者へのフォローアップミーティングについて、9月、10月に実施した地域より報告があった。出席率は90%以上だった。

今年度のフォスタリングチェンジ・プログラムの実施報告をどのように報告すべきかの意見が出た。九州地区で4カ所、関東地区7カ所、計11カ所がフォスタリングチェンジ・プログラムを実施したため、報告できるようにしていく。

来年度以降、フォスタリングチェンジ・プログラムの実施に向けて、各地域より悩みを含めた意見が出された。

まず、予算について話が出た。来年度の予算確保をどのようにしていくべきかについて、里親委託不調率を数字で示したり、フォスタリングチェンジ・プログラムを実施するために年間予算どれくらいかかるのかを示したりすると良いのではないかとの意見が出た。

次に、フォスタリングチェンジ・プログラム内のDVDやロールプレイについての話が出た。日本向けのDVDはないか、ロールプレイの内容はどのようなものが良いかについて話された。これについては、各地域どのように実施しているのかを共有できるようにしてはどうかとの話が出た。

フォスタリングチェンジ・プログラムを施設職員に実施したいとの話も出た。フォスタリングチェンジ・プログラムを全部は難しくとも、短縮版を考えているとのことであった。フォスタリングチェンジ・プログラムの様々な可能性が望まれるものと思われる。

その他、評価については科研費を申請し、チームで行う予定である。結果を自治体へ説明することも考えている。

今後のファシリテーターフォローアップミーティング及びコンサルテーションについて、全国のファシリテーターが一同に集まれるフォローアップを1泊2日で実施できればと考えている。

フォスタリングチェンジ・プログラムの思春期バージョンである「12+」について、日本財団が現在翻訳中である。

【ファシリテーター・フォローアップミーティングの開催】

実施日	4月21日	7月1日	8月19日	10月14日	1月20日
場所	福岡	敬本部	福岡	敬本部	乳児院

1. 第1回ファシリテーターフォローアップミーティング

(1) 実施日

平成29年4月21日（金）14:00~16:00

(2) 実施場所

SOS子どもの村 JAPAN 2階 多目的室

(3) 参加人数

16名

(4) 内容

今回は、九州地区と合同で開催された。まず、各地域（東京、山梨、宮城、静岡、福岡、三重、長野）より進捗状況をご報告いただいた。次に、2016年実践報告として、福岡チームと熊本チームよりご報告いただいた。その上で、2017年開催にあたって、昨年実施されている福岡チーム、熊本チームから助言をいただき、参考となる資料も提示していただいた。その後、質疑応答が行われ、実施に向けて意見交換、情報共有ができた。

2. 第2回ファシリテーターフォローアップミーティング

(1) 実施日

平成29年7月1日（土）10:30~16:00

(2) 実施場所

敬老園本部

(3) 参加人数

参加者13名、スーパーバイザー2名の計15名であった。

(4) 内容

今回は、スーパーバイザーに松崎佳子先生と上鹿渡和宏先生をお招きした。まず、4月より実践している地域（静岡、山梨、三重）から、実施状況をご報告いただいた。報告にあたり、写真や動画をご持参いただき、参加者で実施中の様子を共有した。その後、松崎先生、上鹿渡先生からご助言をいただいた。次に、今後、実施予定の地域（宮城、長野）より、現在の進捗状況をご報告いただいた。最後に、フォスタリングチェンジ・プログラムに限らず、里親支援の意見交換を行い、うえだみなみ乳児院の取り組みについて、丸山院長よりお話いただいた。



3. 第3回ファシリテーターフォローアップミーティング

(1) 実施日

平成29年8月19日(土) 10:00~12:00

(2) 実施場所

福岡市こども総合相談センターえがお館 7階研修室

(3) 参加人数

九州地区ファシリテーターと企画委員会メンバー

関東地区ファシリテーターと運営委員会メンバー

(4) 内容

今回は、九州地区との合同で開催された。まず、各地域(福岡、久留米、熊本、大分、静岡、山梨、三重、千葉、東京、長野)の進捗状況と課題の共有を行った。また、互いに質問し、意見交換を行った。上半期に実施した地域は振り返りの場となり、下半期に実施する地域には、実施に向けて貴重な意見を聞く場となった。その他、フォスタリングチェンジに関連する事業について、情報共有した。

4. 第4回ファシリテーターフォローアップミーティング

(1) 実施日

平成29年10月14日(土) 10:30~16:00

(2) 実施場所

敬老園本部

(3) 参加人数

参加者10名、スーパーバイザー1名の計11名であった。

(4) 内容

今回は、スーパーバイザーに上鹿渡和宏先生をお招きした。まず、9月より実践している地域(宮城、東京、長野、千葉)の方々より、実施状況をご報告いただいた。報告にあたり、写真や動画をご持参いただき、参加者で実施中の様子を共有した。その後、上鹿渡先生や上半期に実施した地域(静岡、山梨)の方々からご助言をいただいた。また、上半期

に実施した地域からは、アフターフォローセッションに関する報告や質問等があった。最後に、プログラムの評価方法について情報共有した。



5. 第5回ファシリテーターフォローアップミーティング

(1) 実施日

平成30年1月20日(土) 10:30~16:00

(2) 実施場所

うえだみなみ敬老園 3階

(3) 参加人数

参加者11名、スーパーバイザー2名の計13名であった。

(4) 内容

今回はスーパーバイザーに松崎佳子先生、上鹿渡和宏先生をお招きした。まず、各地域(長野、東京、宮城、静岡、山梨)より、今年度のフォスタリングチェンジ・プログラムの活動(フォスタリングチェンジ・プログラムの実施、アフターフォローアップセッションの実施等)をご報告いただいた。また、来年度に向けてのフォスタリングチェンジ・プログラムの活動予定についてもご報告いただいた。次に、フォスタリングチェンジ・プログラムを実施した中で、実施しにくかったセッションやスライド、修正が必要な点、全体で共有しておくべき課題等を検討していった。その他、①プログラムの評価、②来年度以降のファシリテーター養成コースについて、③ファシリテーターフォローアップミーティングやコンサルテーションについて、④コンサルテーションデイについて、⑤東京フォーラムについて、⑥フォスタリングチェンジ・プログラム実施報告書について、上鹿渡先生、松崎先生よりご説明いただいた。

【英国講師によるコンサルテーション】

実施日	場所
平成 30 年 3 月 2 日	日本財団

(1) 実施日

平成 30 年 3 月 2 日（金） 10:00～16:00

(2) 場所

日本財団

(3) 参加人数

22 名

(4) 講師

Kathy Blackeby 氏

Caroline Bengo 氏

(5) 内容

まず、各地域（静岡、山梨、三重、久留米、福岡、東京、宮城、千葉、熊本、大分、長野）より、今年度のフォスタリングチェンジ・プログラムの活動（フォスタリングチェンジ・プログラムの実施、アフターフォローアップセッションの実施等）をご報告いただいた。各地域報告後、Kathy 氏と Caroline 氏よりコメントをいただいた。また、フォスタリングチェンジ・プログラムを実施する中で疑問に感じた点を Kathy 氏と Caroline 氏に質問し、ご助言いただいた。次に、Kathy 氏と Caroline 氏より「アテンディング」と「選択的無視」のスキルの復習を行っていただいた。その後、二人以上のアテンディングのロールプレイを参加者全員で行った。最後に、上鹿渡先生より、来年度のファシリテーターフォローアップミーティングについてお話があった。





(6) 運営面の振り返り

(6) -1. 良かった点

荷物を事前に送ったことで、必要最低限の荷物に留まった。また、飲み物に関しては、スワン（日本財団1階のカフェ）に依頼したのも良かった。

昼食時、英国講師、通訳、スタッフは日本財団内の食堂を利用することができ、スムーズに食事を摂れた。

後片付けは、参加者も積極的に協力して下さり、スムーズに行えた。

(6) -2. 問題点・課題（反省点）

①通訳への資料の受け渡しが出来ず、実施日直前になってしまった。

⇒通訳の方へ多大なご迷惑をおかけし、負担をかけてしまった。

②受付が大変であった。

当初、受付2名配置予定であった。しかし、入館証を渡す人が必要となり、急遽1階にて1名が入館証を渡すこととなった。そのため、2階の受付が手薄になり、参加者にも手伝っていただきながらの対応になってしまった。

③プログラムの実施報告が長かった。

各チーム 10 分以内で報告をお願いしたが、予定よりも時間を超過してしまった。また、通訳の時間や英国講師のコメントの時間も考慮しなくてはならなかった。

④パソコンの持ち込みを忘れてしまった。

日本財団の担当者と機材の確認まではしたものの、パソコン持参については未確認であった。

⑤開始時間が早かった。

遠方より参加いただいた方に負担をかけてしまった。

⑥カメラを持参しなかった。

コンサルテーションデイの様子をカメラで撮影すると良かったが、カメラを持参しなかった。

⑦案内の貼り紙を用意していなかった。

当日、他にも日本財団内で会議等が行われていたため、貼り紙が必要であった。日本財団職員に用意していただくこととなってしまった。

⑧配布資料の受け渡しが曖昧になってしまった。

⇒実施報告の資料を各地域で持参いただいたが、当日受付の人数が足りず、慌ただしくなってしまった。そのため、各地域、配布するタイミングにバラつきが出てしまったり、手元に資料がなかったりといった事態が生じた。

(6) -3. 次回への改善点

①通訳への資料の受け渡しを実施日間近になってしまった。

前提として、通訳の方の希望が最優先である。通訳の希望通りに行うことが難しいような場合は、遅くとも 1 週間前に通訳へ提出できるように各地域に手配すべきである。ただし、今後フォスタリングチェンジ・プログラムを実施する地域が増えていくものと思われるため、通訳の方への提出はより早くすべきと考える（遅くとも 2 週間以上前）。

通訳の方への提出も考慮すると、通知文は 1 ヶ月半前に出し、2 月上旬には各地域から出席報告、質問事項、復習したいスキル、実施報告書を提出いただくと良いと思われる。それらを事務局でまとめ、2 月中旬には通訳へ提出すると通訳の方への負担が減るものと考えられる。

②受付が大変であった。

次年度以降も日本財団で行う場合には、受付に少なくとも 3 名以上の人員が必要であると考える。

領収書を書く作業に追われてしまったため、事前に宛名や但書の部分を参加者に聞き取っておくと、領収書の作業の負担が減るものと考え。通知文の受講料もしくはその他のところに「領収書が必要な方は、事前に宛名と但書をお知らせください」の一文を入れると良いものと思われる。

③プログラムの実施報告が長かった。

通訳の時間や講師からのコメントの時間を考慮すると、5 分程度が望まれる。

事務局側から報告内容をもっと絞って提示し、各地域に考えていただくと、時間にバラつきが出ないものと思われる。報告の様式（フォーマット）を提示しておくのも良いと考える。

コンサルテーションデイの目的をはっきりさせるとどこに重きをおくのかがはっきりしてくるものと思われる。

④パソコンの持ち込みを忘れてしまった。

日本財団で機材を使用する際には、パソコンを持参していくこととし、準備リストに追加する。

⑤開始時間が早かった。

遠方から来る方もいらっしゃることを考慮すると、10 時半～16 時半の実施が望まれる。

⑥カメラを持参しなかった。

カメラを持参していくこととし、準備リストに追加する。

⑦案内の貼り紙を用意していなかった。

案内の貼り紙を用意することとし、準備リストに追加する。

⑧配布資料の受け渡しが曖昧になってしまった。

事前に資料を送っていただき、事務局で準備し、受付で渡すとスムーズに受け渡しが可能になるものと思われる。または、当日受付で資料を受け取り、事務局でまとめて配布すると良いものと思われる。当日の準備の忙しさを考えると、資料を事前に会場へ送付すると良いと思われる。その一方で、情報管理の観点からするとやや不安も残り、検討が望まれる。